

イギリスの場面緘黙情報研究協会 SMIRA (スマイラ) の資料です。  
 日本では「場面緘黙」の理解や治療体制が大変遅れています。  
 この資料を日本で使われる時は、日本の現状を考えた上で参考にされることをお勧めいたします。

原文 : handout4 “ SUPPORTING CHILDREN WITH SPEECH ANXIETY IN SCHOOL ”  
 The Selective Mutism Information and Research Association (SMIRA) の H P  
<http://groups.yahoo.com/group/smiratalk/> の Files

資料： 配布してください！

場面緘黙を説明するために、この情報を先生や家族、友達、専門家にお伝え下さい。

## 学校で緘黙児を支援するために

この資料は、特定の人に対して、また、特定の状況で話すことが難しい子どもをどう支援していけばよいか、学校関係者向けに書かれたものです。こういった子どもたちは場面緘黙（選択性緘黙）と呼ばれますが、もっと症状が軽い場合、あまりしゃべらない子とされていることもあります。

### 1. 入学・入園の前に

子どもが自宅で、人が話していることをどれくらい理解できるか、またどれくらい話すことができるかチェックしましょう。また、家の外ではどの程度話せるかもチェックしましょう。

家の外で、そして知らない人とどの程度話せるか、普段の子どもの状態をチェックしましょう。

入園・入学前に、学校の先生や職員に慣れておくといよいでしょう。先生に家庭訪問をしてもらい、子ども部屋に通しておもちゃを見てもらったり、お話の本を読んでもらったりしましょう。他にも、兄弟といっしょにゲームをして遊んだり、庭でいっしょに時間を過ごすのもいいでしょう。閉鎖的な空間よりも囲いがない場所、また身体を動かす遊びを取り入れる方がリラックスしやすいこともあります。

入園・入学予定の学校に子どもの知り合いが誰もいないなら、少なくともクラスメイトの一人とは知り合いになっておくのがよいです。

他の子どもがいない時間帯、例えば学校が始まる前や放課後、週末や祝日などに、保護者が学校や保育園を訪れる方法も有効です。こうすることによって、誰もいない校舎に慣れることができ、保護者と子が一緒に学校内を探検していくうちに、校舎の様々なところで話したり自分の声を聞くことができると感じることでしょう。

## 2. 入園入学後の、教室での場面緘黙児への対応

保育園では、子どもを落ちさせるために、初めのうちは保護者がいっしょにいるようにしましょう。

子どもに話すよう圧力を与えてはいけません。子どもには優しい言葉遣いで話し、その子が話すのが難しいことをあなたが理解していることを説明しましょう。また、話せるようになった時に話せばよいのだよと説明してあげましょう。

話せる話せないは関係なく、受容的で良いことをすれば褒められるという雰囲気作りに努め、子どもが尊重されていると実感できるように支援しましょう。

特に小さい子どもには、担当の大人を1人決めることができれば理想的です。子どもと特別な絆を築き、徐々に信頼関係や自信を育てていくとよいでしょう。短時間でいいので、定期的に特別な時間を設けて、言葉を発するの必要な遊びや活動をいっしょにしていきましょう。子どもにリードを取らせ、子どもが注意を向けている物に注目し、子どもの活動に興味を添わせる、非指示的アプローチが年少の子どもの場合はよいでしょう。遊びや活動を発展させていく方法を少しずつ提案し、「動物さんをみんな乗り物に乗せようか?」とか、「この中でどれがかっこいいかなあ?」というように、協同的な遊びを促していきましょう。年長の子どものなら、自由遊びではなくもっと構造化された活動(何をするか決まっている活動)もできるでしょう。

他の子ども達と交流できるよう、十分に促して行きましょう。

サリーの先生は、クラス全体で楽しく出欠がとれるようにしたいと考えました。先生は毎日グループから当番を1人選び、その当番の子どもには、先生が名前を呼んだお友達を見つけて握手をさせるようにしました。

そのうちに、この活動は教室内でできるだけ早く動き回るチャレンジとなったのです!この活動は社会コミュニケーション能力の低い子どもに大変有効で、サリーも不安にならずに参加することができました。

ミーシャの先生は、「言葉を発して注意を引いた子どもが優先される」という傾向をミーシャに理解させ、教科活動と社会的な交流を注意深く区別するよう試みました。先生は話すこと以外で、必ずミーシャを賞励するようにしました。

他のクラスメイト達が補助の先生と音読をしている間、ミーシャは小グループで音韻認識(単語の音を認識すること)とアルファベットの学習をしました。この学習では、絵カードを同じ音のグループに分類したり、2つの単語が同じ音かどうかとxをつけたり、異なる音で始まる仲間はずれの単語を選んだり、プラスチックのカードに書かれた文字をアルファベット順に並び替えたり、最初の音が同じ物の絵と文字を合わせたりしました。

このグループ活動はミーシャに自信を与え、自分より学習が遅れているお友達を手助けするうちに彼女は話をし始めました。ミーシャはこのことで誉められ、やがて先生の前でもお友達を手伝ってあげることができるようになりました。

親しくなれそうな大人しい子どもと組ませて、いっしょにできる遊びを促しましょう。

最初はあまり目をあわせないようにしましょう。

小グループかクラス全体で、よく知られているおなじみのフレーズや歌をいっしょに唱えたり歌ったり、いっしょに数を数えたり読んだりさせましょう。同時に、一定のリズムで手拍子や足踏みなどをするのもよいでしょう。

先生が絵本の読み聞かせの時に子どもにページをめくらせるなら、時々は緘黙児を前の方に座らせて、ページをめくらせてあげるようにしましょう。

どんなことでも、できたことをほめてあげましょう。

出欠をとるときの返事は、ニッコリ笑顔、頷く、手を上げるなどで答えてもよいことにします。

可能な限り、言葉を使うかわりにというよりも、当然のこととして言葉を使わないで課題ができるようなカリキュラムを採用しましょう。

家庭に絵や作品などを持って帰ったり、何かを学校に持ってきて見せるなどして、家庭と学校の交流を促しましょう。

学校と保護者が、なんでも気軽に話し合える関係を築きましょう。特に場面緘黙の子ども達の保護者は内気であることが多いです。そのため、自分の子どもが話していないことを指摘されて、恥ずかしく思ったり、憤っていたりすることがあるかもしれません。

子どもには、他の発達上、あるいは学習上での問題があるかもしれません。これらのことを念頭に置き、なんでも場面緘黙のせいにはしないようにしましょう。

いじめやいやがらせを受けていないか、注意しましょう。場面緘黙の子どもは自分から訴えることができません。

学年が変わる時は、引継ぎを注意深く計画的に行う必要があります。新しい先生に幼稚園や現クラスに来てもらうのが理想的です。

子どもが話すことを要求されない場面でも表情が硬く話せないような状況であれば、自信を育て自立心を持たせるために、個人目標をたてましょう。（以下の項目を参考にしてください）

### 3. 恐怖心が強く、緘動がある子どもへの対応

音楽では、大きな音の楽器を使いましょう。

体育や体育館での活動では、壁や教師から徐々に離れた所にいられるようにしましょう。

より大きく、力強い動きがあるパントマイムや運動をさせるようにしましょう。

体育館や運動場の遊具で高い所に上る遊びができるようになることで、自信をつけていきましょう。他の生徒が周りにいない時に、クラス補助の先生と2人で、または少人数で、特別にやってみる機会を作るといいです。

クラスで、なにかの係や責任のある役割を与えましょう。

先生のお手伝いをさせましょう。最初は他の子と2人で、書類を職員室に届けるといったことがよいでしょう。

パペットで人形劇をしましょう。できればスクリーンを使ってするといいです。

粘土や絵画、運動やダンスといった芸術的な表現を促しましょう。

どう猛で大きな動物のまねをする、声をあげながらダンスをするなど、わいわいとにぎやかなグループ活動をやってみましょう。